

穂高支部社協だより



No. 43

2024年2月



穂高支部社協とは、穂高地域の各地区社協、福祉団体、福祉関係者で構成される、地域福祉を推進する住民による自主組織です。

安曇野市穂高地域「災害時住民 支え合いマップに関する研修会」 を開催しました。 令和6年1月14日(日)

講師に安曇野市福祉政策担当の水野憲治様と、NPO法人さくらネット代表理事で、全国各地で被災地の支援を行っている石井布紀子様を迎え、「災害時住民支え合いマップ」の必要性について学びました。石井様は、能登半島地震における現地での支援の中、合間を縫ってお越し下さいました。阪神淡路大震災をはじめとする、これまでに起きた大災害や現在の能登半島の被災地の実情を交えながら、マップだけでなく、地域のつながりの重要性をお話し下さいました。



例えばお茶会やお祭りなどの地域活動や、日頃の訪問活動などの福祉活動も、一見防災に関係のないように見えますが、実は生命や暮らしを守る「減災力」につながる重要な活動であり、実際に過去の大災害における被災地では、この「減災力」が働いている地域は、救助やその後の復興にも大きく影響を与えているのです。



研修会には区長、地区社協会長をはじめ民生児童委員、自主防災会の方など62名の方にご参加いただき、現在の地域の実情と地域におけるこれからの災害対策について考える機会となりました。参加者からは「実際に対応している方の話は大変説得力があり、モチベーションが上がった」「能登半島地震を機にこの辺りも糸魚川・静岡構造線上にあり、より深刻に考えるようになった」などの感想がありがとうございました。



石井布紀子 様



水野憲治 様

災害時住民支え合いマップを知っていますか？

「災害時住民支え合いマップ」とは、隣近所で助け合い、一人でも多くの命を守るため、災害時に支援が必要な人や避難場所、ハザード情報(洪水や土砂災害が起こりやすい危険な地域)などを地区で話し合い、一目で分かるように書き込んだマップです。



安曇野市社協「福祉員」にご協力いただいています！

安曇野市社会福祉協議会では「お互いさまの地域づくり」を目指して、隣近所のつながりを作る「福祉員」の取組を広めています。

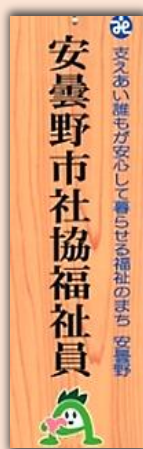
「向こう三軒両隣」の日常関係で、さりげない「見守り」、日頃からの「声かけ(あいさつ)」、何か困りごとがあったときに相談窓口につなぐ「つなぎ役」として活動していただく「福祉員」は、主に隣組長(班長)さまをお願いしております。

少子高齢化が進み、一人暮らし高齢者世帯や核家族世帯が増加するなか、住み慣れた地域で安心・安全に暮らすためには地域での支え合いが欠かせません。また災害が起こったときには、日頃からのつながりが早期の地域の復興に重要な役割を果たします。

安心して暮らせる穂高地域を目指すために、引き続き皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

例えば災害時に避難したときに、「避難所に近所のあの人がいないけど、どうしたんだろう？」と、すぐに気づくことができるのは、隣近所の皆さまです。

日ごろからの交流が、
被災して逃げ遅れた方の
早期発見にも繋がります。



福祉員には玄関先などへ
プレートの掲示をお願いしています。
隣組長さまは、4月の交代とともに
次の隣組長さまにプレートの引継ぎを
お願いいたします。



社協会費・赤い羽根共同募金へのご協力ありがとうございました。

今年度も多くのご協力をいただき、深く感謝申し上げます。穂高地域の集計結果をご報告いたします。

(令和6年1月現在)

● 赤い羽根共同募金 5,317,636 円

【内訳】

- ・戸別募金(世帯) 5,240 件
4,541,579 円
- ・法人募金(事業主) 110 件
733,000 円
- ・その他(募金箱・団体・職域等)
43,057 円



● 社協会費 7,119,969 円

【内訳】

- ・普通・賛助会費(世帯) 6,061 件
5,991,700 円
- ・特別会費 (事業主) 207 件
1,088,000 円
- ・その他(窓口・職域等)
40,269 円

